

被災地での活動は、危険がともなうことや重労働となる場合があります

安全や健康について、ボランティアが自己管理することを理解した上で参加してください。無理な活動は、思わぬ事故につながり、かえって被災地の方々の負担となってしまいます。安全第一を心がけていただくようお願いします。

現場作業での事故防止

クギの踏み抜きや、尖ったもので負傷する事故が実際に起きています。粉じん対策とあわせ、装備をしっかりと注意深く作業してください。

- ◆ 安全中敷きで靴底を補強する、丈夫な手袋（皮、ゴム張り）をする
- ◆ 肌を露出しない服で作業をする、マスクを着用する
- ◆ 作業手順（土のう袋の取り扱いなど）の指示を守る

体調管理をしっかりと

自分に出来る範囲の活動を行うことと、休憩を心がけましょう。体調が悪い時は参加を中止することが肝心です。

- ◆ 熱中症を予防するため、こまめな水分補給や休息を心がける
- ◆ 食中毒にならないよう、お弁当類は時間をおかずに食べきる
- ◆ 小さなケガでも破傷風感染の危険があるので、必ずリーダーに報告する

非常時に備える

滞在中、大きな余震や津波が来る可能性が全くないとは言いきれません。

- ◆ 現地に到着後、すみやかに避難場所・避難経路を確認する
- ◆ 懐中電灯や救急セット、保存の利く非常食を持参する

みえ災害ボランティア支援センター

〒514-0009 津市羽所町700番地アスト津3階 みえ県民交流センター内

電話 059-226-6916

FAX 059-226-6918

電子メール center@mvsc.jp

ホームページ <http://mvsc.jp/>



みえ発！ボラパック

～東日本大震災 災害ボランティア バスパック～



《スケジュール》

- (1日目) 午後 津出発＝車中泊＝
- (2日目) ＝午前 山田町着 ボランティア活動
- (3日目～) ボランティア活動(終日)
- (7日目) 午前 ボランティア活動
午後 山田町出発＝入浴施設(またはホテル)で食事・入浴(各自負担)＝車中泊＝
- (8日目) ＝午前 津到着

《活動地域》

岩手県下閉伊郡山田町船越第9地割10-1

B & G 山田海洋センター内

山田町災害ボランティアセンター

Tel:0193-89-7515

Fax:0193-84-4086

ボランティアセンターは、ボランティア活動が円滑に行われるよう様々な支援や調整を行う組織です。「みえ発！ボラパック」では、山田町災害ボランティアセンターを起点に、災害ボランティア(現場作業に従事する)と、運営支援ボランティア(ボランティアセンターの運営に携わる)の活動を行います。

【出発時集合】

集合場所:津駅東口 「ホテルグリーンパーク津」 正面玄関前

18:30 集合 19:00 出発 時間厳守でお願いします。

- * 自家用車の駐車スペースの用意はありません。津駅まで公共交通機関をご利用ください。(駐車トラブルに関する責任は負いかねます)

【参加費用等】

交通費 往復 10,000 円(片道 5,000 円)

滞在中 & 往復の行程における食事代、復路における入浴料(各自負担)

- * 交通費は、往路の乗車時にまとめてお支払いいただきます。
- * 滞在中、現金をはじめ貴重品類は各自で管理をお願いします。(紛失に関する責任は負いかねます。お預かりも出来ませんのでご了承ください)
- * 持ち物にネームプレート等をつけておくと、緊急・混乱時の荷物探索の手間が省ける場合があります。

【ボランティア保険】

出発前にボランティア保険の加入をお済ませください。

当日は加入証を必ずご持参ください。

事故が起こったら、ただちに、ボランティア保険の加入手続きを行った
社会福祉協議会に電話で連絡をしてください。

活動期間中は、現地のボランティアセンター(B&G海洋センター体育館)で寝泊りします。(宿泊場所は畳敷きの武道場を予定)

現地の電気は復旧しており、ボランティアセンターでは、上水道・トイレの利用が可能です。水道水は飲用可、ポットのお湯も利用できます。滞在中毎日入浴出来るとは限らないため、体拭きシート等を各自ご準備ください。

現地を応援する意味で、「みえ発！ボラパック」では、滞在中の昼食と夕食はお弁当を地元商店に発注する形を取ります(代金は現地でとりまとめて支払い)。各自で朝食分(非常食を兼ねる)のみ用意願います。

被災地では、必ず現地受け入れ機関の指示によって活動し、なるべく単独行動は避けてください。組織的に活動することで、より大きな力となることができます。

復旧や復興の主役は被災者です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。

被災者の立場をできるだけ理解するよう務め、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。

【携行品チェックリスト】 ※荷物は小さくまとめるよう工夫してください

品目	チェック	メモ
寝袋または寝具(冬対応のもの)		
フロアマット (就寝時に敷くもの)		
作業着(長袖、長ズボン)		
合羽(上下に分かれたもの)		
作業用靴(足裏を保護する安全中敷きも必要)		
帽子		
ゴーグルまたはめがね(粉塵対策)		
作業用手袋 (手・指先を保護するもの)		
マスク(防じんマスク)		
タオル・体拭きシート		
洗面用具		
懐中電灯(非常時の備えとして)		
携帯電話(充電器共)		
身分証明書(運転免許証)		
健康保険証・ボランティア保険加入証		
救急セット		
筆記用具		
その他(常備薬など各自の必需品)		

◇留意事項◇

気温差に対応できるよう、着るもの(羽織るもの等)で調整してください。がれきのある場所では粉塵が多く、釘など鋭利なものを踏み抜いたり、手先を傷つける危険性があるため、マスク(防じん用)・ゴーグル・底の頑丈な靴(または靴に入れる安全中敷き)・作業用手袋を必ず用意してください。

ボランティアセンターの体育館は土足で出入り可能です。

歩きやすい運動靴の着用をおすすめします。

往復とも長時間のバス移動となるので、車内用のスリッパや空気枕等が必要と思われる方は各自でご用意ください。